

## 9月定例教育委員会議事録

- 1 日 時 平成24年9月19日(水) 午前9時30分から午前11時48分まで
- 2 場 所 宗像市役所本館3階・301会議室
- 3 出席委員 委員長 井上裕之  
委員 川上美子  
委員 平田良枝  
委員 中岡政剛  
教育長 久芳昭文
- 4 その他の出席者 教育部長難谷辰生、市民協働・環境部長福崎常喜、子ども部長柴田祐治、教育部理事兼主幹指導主事後藤正弘、教育政策課長安部武彦、教育政策課指導主事羽田野崇、教育政策課指導主事西島潔、教育政策課指導主事正路澄代、学校管理課長占部晃、子ども育成課長中野万由美、図書課長星野忠士、市民活動推進課長磯部輝美、郷土文化学習交流課長清水比呂之、市民活動交流室長中村慈宏、経営企画部世界遺産登録推進室長岩佐芳弘、学校管理課給食係長北城戸博文、学校管理課給食係主任管理栄養士柴田道世、教育政策課主幹兼政策係長岡田光晴、教育政策課政策係主任主事許斐知加  
※ 傍聴 なし

5 前回(8/20定例、8/28臨時)議事録の承認(資料1)《承認》

### 6 議案

① 議案第23号 宗像市指定文化財について(諮問)(資料12)《承認》

【久芳教育長】 資料12参照。議事録なし。(▲19秒)

【郷土文化学習交流課長】 本日、議案として提示させていただき、資料をお配りしております。

以下、資料12参照。議事録なし。(▲2分16秒)

【井上委員長】 この件につきましては、8月開催の定例教育委員会において報告事項として説明がありました。今回、教育委員会教育委員長から宗像市文化財保護審議会に諮問を行うということで、議題としてあがっております。ご意見ご質問がございますか。

【川上委員】 条例に則って諮問をするということですので、全く問題はないと思います。

【井上委員長】 他にご意見等がなければ、議案第23号につきまして承認いただけますか。

【各委員】 はい。

## 7 報告事項

### ① 行政報告（資料2）

【久 芳 教 育 長】 8月28日に臨時教育委員会を開いておりますが、それ以降の主だった事項につきまして報告いたします。9月議会が8月28日から始まり、8月30日、31日、9月4日に一般質問がございました。5人の議員から教育問題について質問がなされております。最初に岩木議員からいじめ問題に対する取組みについて質問がありました。田原議員からは、小中一貫教育の成果と将来に向けた考え方、本市の学力向上の具体策、いじめに関する指導、コミュニティスクールの導入についての質問がございました。このコミュニティスクールの導入につきましては、教育委員長に対しましても同様に質問がっております。杉下議員からは、小中学校における豪雨を想定した防災対策について質問がありました。神谷議員からは、学校教育の中でスポーツができる環境づくりについて質問がございました。最後に、石橋議員からは、離島活性化交付金の創設がなされることから、大島、地島といった離島における教育振興策について質問がなされました。特に、漁村留学の環境整備についての質問がありました。併せまして、若い世代からのガン教育実施に対する考え方について質問がございました。一般質問は以上です。9月12日に開催された予算決算特別委員会では、宗像高校の中高一貫教育、市費で雇用している学力向上支援教員や特別支援教育支援員の配置、漁村留学、給食費滞納対策について質問がありました。教員の負担軽減、特別支援等の教育振興事業について質疑が行われております。9月1日の防災の日に、宗像市、福岡県、自衛隊、警察、消防団、九州電力、地域の方々一堂に会して、大規模な防災訓練がなされております。9月8日に世界遺産シンポジウムがございました。専門家会議の西谷先生、筑波大学の稲葉先生、イクロムのガミニウィジェスリアさん、広島大学のフンクカロリンさんを招いての講演とパネルディスカッションが行われております。構成遺産も絞られてきて、いよいよ登録に向けた具体的な準備段階に入ってきたという感じがいたしております。9月17日に、昼と夕方の2部に分けてまして市民参加型ミュージカル「むなかた三女神記」が上演されました。昼の部では六百数十人、夕方の部では約五百人の観劇があったとお聞きしております。非常に盛り上がってきているのではないかと思います。今後も市民の後押しが大事だと改めて実感いたしました。9月9日には、教育委員の皆さんにもお越しいただきまして、ニュージーランド派遣事業の最後の事後研修会が行われ、大きく成長した子どもたちの姿を見ることができました。9月13日に、宗像市とパートナーシップ協定を結んでいるブルガリアのカザンラック市から、市長と副市長がお見えになり、市長との懇談が行われました。私も同席させていただきましたが、市長はパートナーシップを結んで、さらに交流を発展させていきたいというお考えのようでした。宗像市民をカザンラック市に派遣したいというお話もその中でなされておりました。私も子どもたちが訪問できるチャンスがあれば、ぜひ実現させて交流を図りたいとお話しております。9月16日に予定されていた沖ノ島視察につきましては、台風16号の影響で中止になりました。

【平 田 委 員】 行事予定の教育委員会の欄に小中学校の運動会、体育祭の記載がありませんので、追記してください。

【井上委員長】 9月18日の教育長と教育委員会の欄に、中央中学校の学校改善訪問を記載してください。また、10月20日に開催予定の自由ヶ丘南小学校の20周年記念式典には教育委員も出席しますので、教育委員会の欄に追記してください。

② 後援報告（資料3）議事録なし

③ 平成23年度宗像市児童生徒の食生活等に関する実態調査報告書について（資料4）

【学校管理課長】 33ページ、資料4をご覧ください。内容についてご説明する前に、教育委員の皆さまにお詫びを申し上げます。この実態調査につきましては、平成23年度に実施しており、今年5月の定例教育委員会において結果を報告すべき案件でした。報告が4カ月も遅れたことにつきましては、担当課として進行管理が疎かであったと思っております。大変申し訳ございませんでした。

【栄養士】 本日は、調査結果の概要と調査結果を受けての各学校での取組みについて説明いたします。まず、こちらには記載されておりませんが、本調査を始めた経緯でございます。小中学校での食に関する指導を計画的に推進するために、児童生徒の実態を把握する必要がございましたので、平成14年度に調査を開始しました。その後、推移を見られるように3年ごとに実施しています。このため、平成14年度に小学校5年生だった子どもたちが3年後に中学2年生として調査対象になるという形で、同じ子どもたちを3年ごとに追いかけていく調査になっております。当初は小学5年生、中学2年生のみを対象としていましたが、平成17年度からは、小学2年生も対象としております。独立行政法人日本スポーツ振興センターが平成12年度に実態調査を実施していましたので、比較対照できるように同じ質問内容で調査を行っています。

以下、資料4参照。議事録なし。（▲18分48秒）

【井上委員長】 ご意見ご質問がございますか。

【平田委員】 調査結果を見せていただき、児童生徒の生活実態がよく分かりました。「早寝・早起・朝ごはん」の取組みが少しずつ良い形で表れてきていると感じました。給食が好きな理由として、「おいしいから」「みんなと一緒に食べられるから」が上位を占めているのは、給食の良さだと思いました。また、小学2年生で給食を残す理由として「きれいなものがあるから」が54.5パーセントありましたが、学年が上がるにつれて減ってきているのも給食の良さだと思います。特に気になったのは、小学2年生で、朝食が用意されていない家庭が16.4パーセント見られることと、外食・インスタント食品・コンビニ弁当等を「ほとんど食べる」「一週間に4～5日くらい食べる」が12.2パーセントであることです。家庭教育学級の取組みはなされていますが、低学年からの家庭教育の重要性を感じました。

【川上委員】 前回の調査結果は文章記述だけでしたが、今回はグラフをつけていただき、大変見やすくなっています。ありがとうございました。学校に結果を返されると思いますが、細かい集計から全体の動向、経年変化まで分かるようになっており、大変使いやすいデータになったのではないかと

と思います。最近の宗像市の子どもたちの動向で顕著なのは、孤食化が進んでいる点だと思います。また、食べている内容も例えばコンビニ弁当ばかりで食物繊維が不足するなど、排便がうまくいかない原因になっていると思われます。いろいろな問題を含んでいるデータが明らかになったと思います。

「早寝・早起き・朝ごはん」は、平成15年ぐらいから県が始めて、PTA活動において展開されており、10年近くが経過して各学校のPTAではずいぶんと浸透してきていると思われます。1つ気になるのは、「早寝・早起き・朝ごはん」は、それぞれ保護者と子どもが連動して実態調査を含む取組みになっていたと思いますが、例えば「朝ごはん調べ」のところ、市の調査を実施していないために児童における朝食欠食の割合が上がっているのではないかとという点と、健康と生活に関する事で、「早寝・早起き・朝ごはん」などの啓発の効果により就寝時刻・起床時刻の改善がみられたのではないかとという点で少し矛盾を生じているのではないかとということです。これらについてはどのようにお考えでしょうか。

【学校管理課主任管理課長】 確かに表現に矛盾がございました。朝食欠食に関しましては、保護者の立場としても、朝ごはん調べが学校からやってきますと、緊張が走り、それを契機に生活リズムを見直す部分もございますので、本当に効果のある調査だと思います。いろいろな経緯の中で、現在、全校一斉実施はなされていないということで、朝食の欠食に関しましては、調査がなされていないことで結果が悪い方に出たのではないかと考えます。起床時刻等については、少し改善しておりますので、生活リズムに関しての啓発という面では、「朝ごはん調べ」と切り離して、新家庭教育宣言等での取組みが生かされているのではないかとこの考察をさせていただいております。

【川上委員】 ここ10年くらいデータを取り続け、同じ子どもたちの3年後の変化を見られていると思いますが、例えば、取り出している学年の特別な姿なのか、その学年が変わればもっと違う結果が出るのか、もしくは、食べている内容まで踏み込んだデータを取る必要はないかなど、もっと考察する必要があるのではないかと考えます。データを経年で取り続けているのは大変有効だと思いますが、分析する上で必要なものは何なのかを考えていただきたいです。これは、「健康むなかた21」「健康むなかた食育プラン」にも反映される大事な内容だと思いますので、分析に必要なことについて、少し考えていただきたいと思いました。

【井上委員長】 「毎日排便する」が49.5パーセントという結果について、国の調査結果との比較はどうなっていますか。

【学校管理課主任管理課長】 申し訳ございませんが、国の調査には同じ質問項目がなく、分かりかねます。

【井上委員長】 排便に関して、例えば県と比較として宗像市の子どもたちはどのような傾向になっているのでしょうか。中には一週間に1回という回答もあり、非常に驚きました。本調査の有効性、重要性については十分に理解できますが、先ほど川上委員の発言にありましたように、もう少しアンケート項目について検討して深く調べる必要があるのではないかと思います。

【中岡委員】 調査結果をどのように学校に返されているのかが一番気になる点ですが、学校教育においてデータをどのように活用するのかというところまで具体的に出自しているのが安心しました。取

組みは進んでいますが、かなり危機的な部分もあるのではないかと気がしています。今回、これまでと違う取組みや重点的に取り組んでいる内容があれば教えてください。

【栄養教諭等】 今回と前回の調査結果の変更点については学校によりばらつきがあると思いますので、各校におきましては、栄養教諭等がありとあらゆる機会を利用して食に関する指導を行うという方針で進めています。

【中岡委員】 栄養士等の研修においても、これらのデータ等について取り扱っているのでしょうか。

【栄養教諭等】 今回の考察を書くにあたりまして、毎月1回、栄養教諭等の研修会がございますので、その中で意見を吸い上げています。また、全体だけを見ても自分たちの地域の傾向は分からないため、中学校区ごとにデータをお返しし、それぞれに集まられて中学校区単位でどうしようかという話を進めている地域もございます。

【中岡委員】 「給食だより」については、生徒会・児童会が出す場合と栄養士が出す場合があると思いますが、栄養士の研修会の中で「給食だより」の工夫等について話が出ることがありますか。例えば、朝食をとってはいるが、シリアル、菓子パン、菓子、果物を1個だけなど中身に問題があるなど、栄養士の中でも朝食の内容について話題になることがあるのではないかと思います。アンケート項目に取り入れてほしいという意見は出されていますか。

【栄養教諭等】 朝食の内容に関しましては、市全体での実施を取り止めた「朝ごはん調べ」で記入していただくようになっておりますので、調査を継続している学校に関しましては把握できています。朝食の内容をアンケート項目として取り入れるのであれば、調査項目を全体調査に入れ込んでいくのか、「朝ごはん調べ」を全校で実施するよう通知するのかなど手法を検討することになります。

【井上委員長】 「朝ごはん調べ」では、食べた内容について尋ねる項目がありますか。

【栄養教諭等】 はい、ございます。主食、主菜、副菜というくくりで、分かる範囲で主に食べたものを記入する項目があります。

【川上委員】 栄養教諭にはデータが渡されると思いますが、内容を見ていると体調が悪くて給食を食べない子どもがいます。そのようなケースでは、養護教諭等に情報がいかないと詳しいことが出てこないのではないかと思います。情報交換については、各学校に任せていらっしゃるのか、全体として何か決めていらっしゃるのでしょうか。

【栄養教諭等】 調査結果に関しましては学校長宛に提供しておりますので、私どもとしましては、教職員等の校内研修で取り上げたり、職員の集まりの際に簡単なプリントを作成して配布したりして、学校内での実態把握を進めていただきたいと思いますところではあります。

【井上委員長】 校長会等で積極的に教職員に情報を流すよう求めています。

#### ④ 宗像市学校給食食物アレルギー対応児童生徒の推移について（資料5）

【学校管理課長】 96ページ、「平成24年度学校給食における食物アレルギー児童生徒状況調査」に

1箇所誤りがございますので訂正をお願いします。表の一番左の欄の学校名で、下から3番目の宗像市立大島小学校は大島中学校の間違いでございます。申し訳ございません。

以下、資料5参照。議事録なし。(▲2分)

【井上委員長】 ご意見ご質問がございますか。アレルギーを持つ子どもが増加している原因は何ですか。

【学校管理課長】 アレルギーに関しての調査につきましては、いろいろな自治体で実施されていますが、食物アレルギーに特化した調査はなかなか見当たりません。東京都が3歳児を対象に5年に一度実施しているアレルギー疾患に関する調査によりますと、3歳までに何らかの食物アレルギーがあると診断された子どもは、1999年では7.1パーセント、2004年では8.5パーセント、2009年では14.4パーセントとなっており、10年間で倍増したという結果が出ております。この中に東京都立病院の小児科部長のコメントが記載されていますが、「原因は単純ではないが、添加物や加工食品の増加など、食生活の変化も一因だろう」ということで、「昔は食べなかったものが食べられるようになったことや離乳食の開始の早期化なども考えられる」と述べられています。

【川上委員】 昨年、学校の給食室をまわった際に、アレルギーに対応するため専属の方が調理をされているという話をお聞きしました。アレルギーを持つ子どもの数が増加すれば、それだけ給食室での対応が大変になってきますが、調理員の人数についての規定等がありますか。

【学校管理課長】 児童生徒総数を基に調理員数等を決めて調理の委託契約を結んでおります。配置された人員でアレルギー対応を行っていただくこととなります。

【川上委員】 この勢いで増加していきますと、対応についても考える必要があると考えます。子どもの全体数は減っているのに、アレルギー対応は増える傾向にありますので、子どもの全体数を基にした配置では仕事の中身がきつくなってくのではないかと思います。

【学校管理課長】 アレルギーの対応のパターンですが、先ほど4人の児童生徒につきましては、毎日弁当持参とし給食停止と申しました。他にも3パターンございまして、献立によって合わない場合は一部弁当を持参するケースや自分で除去を行うということで保護者、担任、栄養士等が十分連携をとって担任の指導の下に原因食品を自ら除去しているケースがございます。それ以外は除去食を基本とした対応になっております。

【平田委員】 自分で除去する数を記載すれば、もう少し実態が分かり、調理員の配置数を検討する際の資料になると思います。

【井上委員長】 自分で除去する数を計上することはできますか。

【学校管理課長】 献立によって人数が変わりますので、集計が難しいと思います。

【事務局】 補足させていただきます。自分で除去する場合にもいろいろなパターンがございます。例えば、ピーナッツアレルギーの子どもですと、同じピーナッツ和えでもピーナッツそのものを除去すれば食べられる子どももいれば、ピーナッツが触れた部分を食べただけで症状が出る子どももいます。日々の献立の中で除去方法が変わるため、それぞれのケースに応じた除去用の献立表を作成

し、その日の対応を明記して、保護者に確認いただいた上で提供していますので、統計としてどのように計上するのは非常に悩ましいと思います。

【久芳教育長】 年々アレルギーを持つ子どもが増えていますが、幼稚園や保育所でもアレルギーのお子さんたちのデータをとっているのですか。

【子ども育成課長】 アレルギーに関しましては、面談等で状況を確認し、保護者と幼稚園・保育所が協力して対応しています。小中学校と同じような傾向でアレルギーを持つ子どもは増えていると思われませんが、市として数字は把握していません。

【久芳教育長】 東京都の数字を聞きますと、驚くほどの出現率だと思います。原因があるとすれば、幼児期から傾向が見えるのではないかと考えます。可能であれば、小中学校に情報提供していただき、対応に役立てたいと思います。

【井上委員長】 入学時にアレルギーの状況は分かりますか。

【子ども育成課長】 引継ぎの段階で子どもさんの状態をお知らせしている場合もあると思います。

【中岡委員】 小中学校では入学時にアレルギーに関する調査を行っています。子どもたちには事前に1ヵ月分の献立表を配布し、どのような食品が含まれるのかを保護者に確認いただいています。

【川上委員】 アレルギー対応マニュアルでも、入学時に医師の診断書の提出を求めるなどの規定があったと記憶しています。平成22年度に開催された定例教育委員会でマニュアル案について議論したと思いますが、その後、内容は改訂されたのでしょうか。

【学校管理課長】 「宗像市学校給食における食物アレルギー対応マニュアル」につきましては、平成22年度に検討委員会を立ち上げ、6人の委員に検討していただいて作成しました。平成23年4月1日からマニュアルを運用しておりますが、川上委員のご発言のとおり、その中でアレルギーを持つ子どもの保護者には入学時に医師の診断書の提出をお願いしています。

【川上委員】 よかったら改訂版等をいただけますか。

【学校管理課長】 内容の改訂はしておりません。

【川上委員】 以前に配布いただいた内容に変更がなければ結構です。

#### ⑤ 学校給食費滞納の実態について（資料6）

【学校管理課給食係長】 資料6参照。議事録なし。（▲10分34秒）

【井上委員長】 過年分への対応は非常に厳しいと思いますが、現年分についてはしっかり取り組んでいただいていることがよく分かりました。

#### ⑥ 天井扇風機設置状況について（資料7）

【学校管理課長】 資料7参照。議事録なし。（▲1分28秒）

【井上委員長】 設置工事も含めて1台につき約50,000円もの経費がかかっているのですか。

【学校管理課長】 キュービクルという屋内に引っ張ってくる配電盤があり、そちらから校内の各教室

に配線しています。電圧も変わりますので電気工事が必要になり、かなりの期間と費用がかかっています。

【川上委員】 主婦感覚からするとびっくりするような金額ですが、工事費を除いた扇風機1台あたりの価格はいくらですか。

【学校管理課長】 手元に資料がございませんので、後ほどお知らせします。

【川上委員】 市販されているようなものではなく、耐用年数等も考慮して選ばれた特別な扇風機だと思います。学校設備としてきちんとしたものを設置されているのは分かりますが、市民感覚からしますと非常に高価な気がしますので、できれば工事費としていくらかかったのか、1台あたりの金額がどのくらいだったのかを明示していただいた方がクリアになってよいと思います。

【久芳教育長】 市民から暑くなる前に設置してほしいという要望があがってきており、市長からも工事を早く行うようお話がございましたが、配線工事等が技術的に非常に難しく、期間もかかるということで工事費も多額になっています。夜間工事ができませんので、できるだけ急いだ結果、何とか夏休み期間中に設置を終えることができました。

【井上委員長】 工事を請け負ったのは市内の業者ですか。

【学校管理課長】 いいえ、市内の業者ではありません。

【平田委員】 子どもたちが快適に過ごせるのであれば、これだけの費用をかけた意味もあると思います。

【井上委員長】 費用対効果はでていていると思います。

【学校管理課長】 「涼しいので勉強に集中できる」「体育の後の授業や給食時間が特に涼しく感じる」などの子どもの感想を聞いております。また、先生からは、「下敷きをうちわの代わりにして扇いでいる生徒を注意することがなくなった」「授業への集中度が高まった」というお話がありました。

#### ⑦ 平成24年度全体研修・教育講演会アンケート集計結果について（資料8）

【羽田野指導主事】 資料8参照。議事録なし。（▲1分12秒）

#### ⑧ 海の道むなかた館秋の特別展について（資料9）

【郷土文化学習交流課長】 資料9参照。議事録なし。（▲3分6秒）

#### ⑨ 教育委員会のアピールについて（資料10）

【教育課主任指導主事】 資料10参照。議事録なし。（▲3分50秒）

#### ⑩ 9月学校の日（資料11）

【教育政策課長】 本日、資料11の差替え分を配布しております。日の里中学校が学校の日として9月15日に実施した土曜日授業の結果を記載しています。

【久芳教育長】 玄海中学校、玄海小学校、玄海東小学校、河東西小学校の4校を訪問しました。玄海中学校では2年生がワクワクWORKで不在でしたが、雰囲気としては非常に良い方向に向かっていくというのが率直な感想でございます。特に心配をいたしておりました3年生では、一部の生徒の学ぶ姿勢に少し問題が見受けられたものの、授業にはきちんと参加していましたし、チャイムと同時に着席する姿も見られました。どの教室にも教員が複数体制で臨んではいますが、昨年度や1学期の様子と比較しますと、静かすぎるほどの状況といえます。落ち着いた状況の背景について、校長先生にお聞きしたところ、新たな取組みを行っているとのことでした。その1つに、成績を玄海中学校での絶対評価という形で出していたのを、今回は宗像市全体、あるいは県全体での絶対評価で出したそうです。その結果、子どもたちの成績は下がってしまいましたが、3者面談で説明して保護者にもきちんと認識してもらった取組みを行ったとのことでした。また、夏休みに学校やコミュニティに生徒を集めて補充学習を実施したそうです。毎年2学期の早い時期に実施していた後競争を中止し、生徒が学期の初めから学習に取り組む環境づくりを行ったというお話でした。そのような成果が出ているのかもしれないとのことでした。地道な取組みですが、先生方の今後の奮闘に期待したいと思います。玄海中学校区の小中学校は、学校情報化モデル検証事業の研究指定・委嘱校として電子黒板やデジタル教科書を入れておりますので、その様子を見に行っていました。玄海小学校と玄海中学校では、訪問時に電子黒板は使われていませんでしたが、午前中に研修等で使っていたとのことでした。玄海東小学校では、実際に電子黒板を使った授業を見ることができました。最小公倍数に関する算数の授業で、子どもたちにとっては少し難しい分野に入ってきているのではないかと思いましたが、非常に集中して授業を受けている印象を受けました。投影機と電子黒板をうまく使った非常に効率的な授業が展開されていました。玄海東小学校では、他校の可動式とは異なる設置型の電子黒板を導入していますので、1つのテストケースとして今後の参考になるのではないかと思います。河東西小学校でも時計の読み方や社会科の授業などで電子黒板が使われていました。ちょうど2クラスで使われていましたが、子どもたちに感想を聞いてみたところ、「非常に分かりやすい」「テンポが早くて良い」「授業が楽しい」「触りたい」などの答えが返ってきました。先生方は、時間的な余裕ができることを盛んに強調されていました。また、子どもの集中力が高まっているとのことでした。そのように良さを実感しているということでしたので、今後も現場で実際に使っていただき、その良さを成果として発信していただきたいと思いました。

【川上委員】 河東西小学校、河東小学校、河東中学校の3校を訪問しました。河東西小学校では電子黒板を使った授業を見せていただきました。私が見たのは音楽の授業でしたが、トランペットやホルンなどの金管楽器を実際に弾いている姿が見えて、視覚的な効果だけでなく、聴覚でも音が分かる内容になっていました。どんな持ち方をすればどんな音が出るのかが、動画で効果的に示されていて、子どもたちも非常に関心を持って見ていました。この日の河東西小学校は、非常に行事が多く、午前中には地域の方、子どもたち、保護者で清掃作業、除草作業が行われていて本当にたくさんの方が来校されていました。学校評議委員をされているお坊さんが来られていて、一緒に作業することで

地域の方がどのような活動をしているのかを保護者が知る良い機会になったと言われていました。夏休みに地域の方が芋畑の清掃等を行ったことを保護者の方が初めて知り、「そんなことだったら、私たちも手伝ったのに」という声が聞かれたそうです。河東小学校では子どもたちに大きな変化が見えました。昨年までは、子どもたちは自分から進んで挨拶をしない状況でした。掃除時間に訪問しましたが、玄関を掃除している子どもが、私が玄関に到着するまで直立不動で待っていてくださって、目を見て「こんにちは」という気持ちの良いあいさつをしてくれました。子どもたちが上手にあいさつするようになり、また、きちんと立ち止まって相手の目を見て話すことができるようになっていて、とても驚きました。以前は遊びながら掃除をしている姿も見受けられましたが、今回は誰もしゃべらずにもくもくと本当に一生懸命に磨き上げていました。2学期の初めに、校長先生が「今学期は掃除をきちんと徹底して行います」と自ら宣言されて、掃除時間の始まりに必ず「掃除大作戦です」というアナウンスをされているとのことでした。教職員も誰一人、職員室にいらっしやらず全員で掃除を行っている様子を見ていて非常に気持ちの良いものでした。子どもたちが生き生きとしていて、非常に良かったと思います。河東中学校では、2年生がワクワクWORKで不在でした。1年生と3年生の様子を校長先生と一緒に見せていただきました。子どもたちには疲れている様子が見られました。静かに授業を受けてはいますが、姿勢が悪かったり、疲れて眠っている生徒がいたりして、聞いているだけの授業になっているのではないかと思います。地域の小学校では、職場体験中の2年生が、各々教室に入り、背筋をきちんと伸ばして一生懸命に先生の手伝いをしていました。おそらく中学校にいるときは、体を斜めにして授業を聞いているような生徒だと思いますが、全員が先生として扱われる小学校では、率先して掃除を行うなど、きちんとした姿を見せてくれました。気持ちが入ると子どもたちはこんなに違うものなのだと実感しました。

【平田委員】 10日に玄海中学校、赤間小学校、城山中学校を訪問し、15日に日の里中学校を訪問しました。玄海中学校では、校内に入った瞬間、落ち着いた雰囲気を感じ、変わったなと思いました。先生方ががんばっている姿が見られ、変わっていているという印象を抱きました。赤間小学校では、道徳の公開授業が行われていました。学習規律がしっかりできている学校だと思いました。子どもたちもとても落ち着いていましたし、経験の浅い先生方ががんばるさわやか姿が見られました。机上に水筒を置いている6年生のクラスがありましたので、一緒にいた教頭先生にお聞きしたところ、本来は後ろに置いておくべきものなので後ほど指導しておくとのことでした。2年3組では落ち着いて道徳の授業が行われていましたが、廊下の端からばたばたという音が聞こえました。雨が降ったために、外で行う予定だったボールゲームを教室で行っているクラスがあり、その音が連なっている教室まで届いていました。教頭先生に「時間変更はできなかったのですか」とお聞きしましたら、変更は可能で、担任に話しておくとのことでした。校長先生もこの件については意識していらっしやいました。雨だからゲームはできないこと、教室でゲームをすれば他のクラスに迷惑がかかることを子どもたちに教えるチャンスだと思います。できないことを生かす工夫が教師の姿勢として大事ではないかと思いました。赤間小学校でも職場体験をしている中学生の姿が見られました。採点をしたり教室

に立っていたりする凛々しい姿を見て、中学生もこのような姿を見せるのだと感心したところです。城山中学校はとても落ち着いていました。1年7組に課題のある男子生徒がいて、先生がご苦労されてました。校長先生にうかがいましたら、保護者や関係機関と連携して取り組んでいらっしゃるのことでしたので少し安心しました。3年6組では、チャイムが鳴っても4分の1程度の子どものしか座っていませんでしたので、校長先生にお話をしておきました。ニュージーランド研修に参加した生徒から笑顔で話しかけられました。「報告会で5分のところを15分話したいくらいとてもよかったです」と言われ、本当に良い体験ができたのではないかと思います。15日に訪問した日の里中学校では、ワクワクWORKを終えての発表が行われていました。「大変だった」「きつかった」などの感想が聞かれましたが、あいさつやチームワークの大切さを学んだ姿が見られました。この事業は今後も継続すべきだと思います。飲酒運転による交通事故でお子さんをなくされた方による講演が行われていましたが、実体験に基づいた内容で胸を打つものがありました。講演会の最後に生徒会長が謝辞を述べていましたが、話の要点をしっかりとつかんでおり、今後の決意まで述べていたので感心しました。しっかりと成長している姿を見ることができました。

【中岡委員】 他の教育委員さんの報告と重複する部分は省略して簡単に報告いたします。玄海中学校では、1学期に比べて雰囲気はずいぶん変わりました。1年生では学級活動が行われていたましたが、机の配置等も玄海東小学校で行われている特別活動の形をとっており、しっかり中学校につながってきていると感じました。子どもたちも落ち着いた様子で、手を上げて意見を発表するなど、前向きに授業に望んでいる姿が見られました。赤間小学校では、校内に入ってすぐの玄関から感じたことですが、整理整頓が本当によくできていました。各学級でも整理整頓が徹底されており、そのことが落ち着いた雰囲気を作っているのではないかと感じました。全学年で道徳の授業が行われていたましたが、先生方は子どもの目を一人ひとりしっかりと見ながら指導されていました。子どもたちは昨年度以上に意欲を持って学習に取り組んでいると感じたところです。河東小学校では、昨年度は少し落ち着かない様子がうかがえましたが、今回、今年度初めて訪問してみて、どの子どもたちの表情も非常に柔らかく明るいと感じました。子どもたちが安心感と充実感を持てる学級づくりが進められていると思いました。担任の先生方の指導の成果だろうと感じました。

【井上委員長】 玄海中学校、河東西小学校、東郷小学校の3校を訪問しました。玄海中学校につきましては、教育長と中岡委員から報告がありましたので割愛させていただきますが、本当に落ち着いた印象を受けました。河東西小学校に関しましても、川上委員から詳しい報告がありましたので、補足をさせていただきます。若い先生が電子黒板を使った授業にしっかり取り組んでおられましたので、非常に心強く感じました。校長先生の並々ならぬ意欲に本当に感心いたしました。東郷小学校では、校長先生が入院されていてお会いできませんでしたが、教頭先生と一緒に回らせていただきました。改修工事で新しい学校のようにきれいになっていました。教室が明るくなっており、素晴らしい雰囲気でした。特別支援学級の先生とお話しましたが、改修していただいて本当に良かったとのことでした。先生たちの明るい表情を見て非常に良かったのではないかと思います。

⑪ 小中一貫教育について（当日配布資料）

【羽田野指導主事】 当日配布資料参照。議事録なし。（▲1分4秒）

⑫ その他

【世界遺産登録推進室長】 宗像市オリジナルナンバープレートデザイン市民投票として、4月から一般公募しておりましたナンバープレートについて全国から123点の応募がございました。その中から市の選考委員会で3点を選出しています。お配りしておりますチラシをご覧ください。今後、候補となったA、B、Cの中から市民投票でデザインを決定します。投票の仕方につきましては、チラシに添付しているはがき、もしくは専用用紙を市役所、海の道むなかた館、各コミュニティセンターに設置している投票箱に入れていただきます。応募期間は10月23日までで1人1票とします。投票いただいた方の中から抽選で50人に最終的に決定されたデザインが入ったクオカードをプレゼントします。

【図書課長】 「平成23年度図書館要覧」を作成しましたので、本日配布しております。

【教育政策課長】 市で活動しているNPO5団体と教育委員会で構成される「宗像市不登校児童生徒をサポートする会 ここほっと」が、夜回り先生で知られる水谷修さんを招いての講演会を開催しますので、御案内します。

【世界遺産登録推進室長】 事前配布資料「世界遺産緩衝地帯内での宗像市公共施設等（建造物・構造物）における景観形成基準について」参照。**議事録非公開**

【郷土文化学習交流課長】 国史跡桜京古墳整備基本計画と国史跡田熊石畑遺跡整備基本設計の概要版ができましたのでご報告します。内容につきましては、以前に開催された教育委員会で説明させていただいております。桜京古墳整備に関する今後のスケジュールについて説明いたします。平成23年度に策定された桜京古墳整備基本計画では、平成24年度に基本設計、平成25年度、平成26年度に実施設計と工事を行い、平成27年度にオープンする予定になっていましたが、桜京古墳が世界遺産の構成資産から外れたこと、活用を予定していた合併特例債が5年間延期になったことを受けまして、平成26年度までに工事を終わらせる必要性がなくなりました。併せまして、来春のオープンに向けて田熊石畑遺跡の工事に入りますが、スケジュールが非常にタイトな状況になっております。世界遺産の構成資産から外れたという意味合いからしますと、整備のレベルを再考する必要性も出てきております。そのような意味で、きちんとした整備を行うために、田熊石畑遺跡の整備が終了した後に桜京古墳の整備を進めていきたいという考えから、今後の計画を3年間先送りしたいと思います。

【子ども部長】 ニュージーランド研修事業につきまして、正式な報告書は後日お配りする予定ですが、熱の冷めない内に簡単に報告させていただきます。今回で20回目を迎えましたが、6月3日の団員選考会から始まりまして、事前研修5回、結団式、出発式、解団式、事後研修ということで、教育委員の皆さんをはじめ、いろいろな方のご協力により事業を無事完了することができました。この場をお借りして心からお礼を申し上げます。ありがとうございました。昨年度に事業内容について検

証を行い改善を加えて、今年取り組みを行ってまいりました。大きな変更点としましては3点ございます。まず、これまでは事業に関する周知が行き届いていなかったことが大きな反省点としてありましたので、今回は丁寧に団員募集を行いました。事業目的、内容の詳細、写真等を記載したパンフレットを作成し、案内のタイミング等についても検討を行って保護者向けに案内するなど、周知方法の改善を図り、事業内容をきちんと伝える取り組みを行った結果、59人の応募があり、一定の成果がみられました。次に、参加対象を小学6年生まで拡大し、実際に6年生2人が参加しました。英語力に関して若干の未熟さはありませんでしたが、小学生の参加は今後も継続できるのではないかと直に見て感じたところです。小学生を加えたことで、団員の年齢層の幅が広がり、上の子が下の子を思いやる姿がさまざまな場面で見られた点については非常に良かったと思います。3点目の取り組みとして、過去6回実施していた事前研修を5回に集約して行ったことで、若干の負担軽減が図られました。正路指導主事から助言をいただきながら、いろいろな場面における子どもたちの振り返りを見てきましたが、本研修が終了した時点で行ったアンケートから目に留まった点について紹介させていただきます。まず、人を見かけで判断してはいけないということが分かったことです。交流先のマウントロスル校の大きな特徴として、人種や民族がばらばらであることがあげられます。このため、ホストファミリーの生活様式が極端に違うことを目の当たりにし、違いがありながらも、うまくお互いを認め合ったり、まとまったりしていることに強い刺激を受けて、それを受け止める力をつけたことは、非常に大きかったと思います。もっと英語力を身につけて今後発展させていきたいという前向きな気持ちが全員の課題としてあがっていました。決して満足はしておらず、次のステップにつながったことが非常に良かったと思います。参加した団員は、「貴重な経験をした」「一生の宝になった」と言っていました。「もっと多くの人にこのような経験をしてほしい」「学んだことを他の人に伝えたい」と、広がりを持って考えている子どもたちがかなりの数見られました。これは市として今後の取り組みの中にも反映させなければいけないことだと思います。「周りの人間関係を気にする心の小さな部分の殻が取れて、自分自身をしっかり持てるようになった」など、今回の研修を積み重ねていく中で、自分自身を見つめることができ、心が強くなり人間が大きくなったという子どもが数名おりました、大きな成果だったと感じています。一方で、保護者の意見もいただいておりますので、少し紹介したいと思います。「帰国した今も大きく成長を感じているが、研修の本当の成果は5年、10年先にきっと出てくるだろうと期待している」「感謝の気持ちが持てるようになった」「自分自身で考えて行動するようになった」「もの見方に広がり余裕が見られる」などの感想があり、大きな成果だと思います。「早い年齢でこのような経験をすることに大きな意味があるのではないか」というご意見もいただいております。事務局としての反省としましては、まず、今回事前研修は正路指導主事から指導助言をいただきながら行いましたが、本研修につきましては一般行政職員のみで対応しました。子どもたちの指導に関して技術力を持っているわけではありませんので、子どもたちの主体性を尊重し、自己責任の下、自分の力でやらせてみようという気持ちで取り組んではきましたが、成果については不安もありました。子どもたちのコメントを見ますと、一定の成果はあがったのではないかと考えます。評価に

つきましては、今後、皆さんからもいただければと思います。また、市全体として、今回参加した子どもたちの今後の活躍をどのようにフォローするののかについて、市の国際交流全体の取組みと併せて検討しなければならないと思っています。そのための体制づくりが課題としてあげられます。子どもたちも今回の経験をここで終わらせたくないという気持ちを持っていますので、その気持ちを大切にしたいと思います。

【井上委員長】事務局をお願いしたいことが一点あります。先ほど後藤理事から説明があった教育委員会のアピールの中にも少し出ておりましたが、これまで教育委員会の会議において情報教育についての報告があまりなされていません。アピールとは別に、来月の定例教育委員会でICT活用事業関連の報告を行っていただきますようお願いします。

【教育総務主任指導主事】現時点までの取組状況について報告させていただきたいと思います。

【井上委員長】電子黒板は今後導入されていくと思いますが、パソコン等の機器については以前からかなりの予算を投入して整備していますので、パソコン教室の活用状況等を含めて情報教育の現状について報告していただきたいと思います。

【図書課長】9月の定例教育委員会で川上委員からご質問がありました「ぬいぐるみのおとまり会」参加後に新しく図書館の利用者になられた方の数ですが、8人の方が新規登録をされています。

【学校管理課長】先ほど川上委員のご質問にありました天井扇風機の購入価格は、本体と壁に設置するスイッチを合わせて1台につき約20,000円です。1教室あたり、扇風機4台で約80,000円、工事費が約130,000円でございます。

【井上委員長】本日の議題は全て終了しました。次回の定例教育委員会は、10月22日月曜日、午前9時30分から301会議室にて行います。本日は長時間ありがとうございました。

次回開催予定日 10月22日(月)午前9時30分開始

平成24年10月22日

井上裕之

---

川上美子

---